

パブリックコメントの実施結果について

1 実施期間

令和6年12月9日（月）～令和7年1月9日（木）

2 意見提出状況

提出方法	提出人数	意見件数
直接持ち込み	0	0
郵送	0	0
電子メール	0	0
ファクシミリ	0	0
あいち電子申請システム	1	1
合計	1	1

3 提出された意見の概要と市の考え方

裏面のとおり

岡崎市こども計画（おかざきっ子 育ちプラン）（案） に対する意見と市の考え方

番号	意見	市の考え方
1	「子どもの居場所作り」について提案:近隣の市町村のように児童館を開設してください。あるいは、子育て支援センターや子どもの家を幅広い年齢が土日も利用可能な状態にしてください。 理由:岡崎市では、未就学児と小学生以上の兄弟を育てる家庭に、遊び場がありません。例えば、子育て支援センターは平日の未就学児のみの利用が可能という状態です。また、夏休みや冬休み期間中の公園は、気候の都合上、長時間の利用は難しいです。従って、子どもの遊び場は自宅か、イオンモールか、近隣の市町村の児童館がほとんどだと思います。私自身は岡崎市出身ではなく、幅広い年齢の子どもが利用できる児童館が当たり前の環境で育ちました。空き家を子どもたちが集まれる場所にしたいという他都道府県の事例もあるようです。小学生の平日の居場所だけでなく、切れ目のない居場所作りをお願い致します。	本市では、欠町にある東公園、旧額田地域にあるわんパーク、籠田公園等の公園を外遊びや散策ができる場として提供しており、家族レクリエーション型公園である南公園が、令和9年度にリニューアル開園の予定となっております。 また、屋内施設では、図書館交流プラザ、おかざき世界子ども美術博物館、地域福祉センターや市民センターの図書室、等の各施設を居場所や遊び場として利用していただくことが可能です。 新しい施設の整備ではありませんが、例えば令和5年度から、地域福祉センターが60歳未満のかたでも利用可能となり、乳児と一緒にロビーの絵本やおもちゃをご利用いただいたり、学生の方にロビーを勉強場所としてご利用いただいたりしています。 また、今年度から、既存の公園等を活用し、「パパの子どもと遊ぶスキル」をみがきながら、パパ同士の交流を図る「PAPATOパークおかざき」の試みを開始しました。こうした、既存施設の活用も子どもの居場所や遊び場確保のためのひとつの手段であると考えています。 【関連頁：64頁「（4）人間性・社会性を育む体験活動の推進」、90頁・91頁「（2）安心して外出できる環境の整備」】